

かわちのタイムス

2019.10.1発行 No. 41

かわちの社労士事務所
 社会保険労務士 喜多裕明
 〒577-0012 東大阪市長田東 2-1-31-301
 T)06-6785-7133 F)06-6785-7133
 E-mail: info@kawachino.org
 URL: https://kawachino.org

長田駅前道の標 シール看板がお目見え



中央大通り（阪神高速）に面した3階の窓側

「最低賃金千円時代」に!!

- ① 東京 1,013 円 ② 神奈川 1,011 円
- ③ 大阪 964 円 (28 円アップ)
- ★ 全国加重平均 971 円 (27 円アップ)

大阪府の推移

近畿の最賃 (R1 年 10 月)

年度	最賃 (円)	アップ (円)	府県	最賃 (円)	アップ (円)
H26	838	19	滋賀	866	27
27	858	20	京都	909	27
28	883	25	大阪	964	28
29	909	26	兵庫	899	28
30	936	27	奈良	837	26
R1	964	28	和歌山	830	27

◆最賃引き上げは世の流れ
 格差と貧困をなくすため
 には、毎年の最賃引き上げは
 欠かせません。「同一労働同
 一賃金」に少しでも近づくた
 めにも必要でしょう。

◆最賃は全国一律が「いいね」
 今回、最賃の低い県が中央
 の答申以上の引き上げに踏み
 切りました。(鹿児島県の 29 円
 など 19 県)。

都会と地方の格差の理由は

決のままです。

「物価が違うから」といわれ
 ますが、コンビニの価格やス
 マホの料金は全国一律です。
 最賃も全国一律の最低保証
 がのぞまれます。

◆消費増税は何をもたらすか
 消費税の最大の問題は、庶
 民にとっては「逆進性」、中小
 企業にとっては「転嫁ができ
 ない」ことです。下請企業な
 どが「消費税分負け」とい
 と取引先に言われて、消費税
 を上乗せできない問題は、消
 費税が導入されて以来、未解

◆いまこそ中小企業支援を
 中小企業に対する支援策と
 して、最賃引き上げによる社
 会保険料アップの対策(減免)、
 消費税転嫁を保証する公正取
 引の対策強化など、緊急に取
 り組むことが求められます。

「景気回復のためにも賃上げを」。それはわかるの
 ですが、そこに消費税増税が重なる話は別です。

消費税 10% に増税

最低賃金引き上げ

どうなる?

◆いままも中小企業支援を
 さらに追い打ちとなる消費
 増税は、経済・景気・暮らし
 に重くのしかかってきます。

日本経済は、消費税増税が
 繰り返された 90 年代以降、低
 迷を続け、「成長しない国」に
 なってしまっています。

「小さく産んで大きく育てる」

【消費税年表】

- 1989. 4.1 消費税 3% 導入、免税点 3 千万円
- 1997. 4.1 税率 5% にアップ
- 2004. 4.1 免税点 1 千万円に
- 2014. 4.1 税率 8% にアップ
- 2015. 10.1 税率 10% アップ見送り (景気による?)
- 2019. 10.1 税率 10% にアップ、軽減税率導入

だから映画はおもしろい

vol.34

みとりし

(2019年、日本)

●近頃、終活という言葉をよく耳にします。社労士にファイナンシャルプランナーの資格取得をすすめてくる営業もよくあります。

しかし、看取り士という資格・職業があることは、映画を見るまで知りませんでした。

●本作に登場する看取り士は車椅子を押すなどの介護行為もしますが、その部分はフィクションとのことです。また、医療行為は行ないません。

看取り士の仕事は、「自然で幸せな最期を迎えられるために、旅立つ方に寄り添い、思いや愛を受けとめ、残った方に受け渡し、納棺前までの最期に寄り添う」ことです。

●本作は、交通事故で娘を亡くし、定年前に脱サラして、岡山県高梁市で看取り士ステーションを開設した柴久生（榎木孝明）と新人看取り士・高村みのり（村上穂乃佳）を中心に、旅立つ者と送る者の最後の時間を温かく支える人々を描いています。

重いテーマに正面から向き合い、小さい子どもを残して旅立つ若い母親など、やりきれないエピソードもありますが、やさしく、心温まる物語です。

●10年ほど前に見た『おくりびと』も印象に残る作品でしたが、本作がよりリアルに感じられたのは、筆者が年齢を重ねたからでしょうか。

これまでの人生の中で、人生の最期に立ち会ったことがなく、それを職業にすることの大変さを実感しました。

社会保険労務士も看取り士と同じく、資格に基づく職業です。人の役に立つ資格として生かしていきたいと思います。

秋の恒例行事となりつつある会社見学会。筆者が代表を務める大阪社労士会の安全・衛生自主研究会の企画です。「日本でいちばん大切にしたい会社」・第7回（平成29年3月）審査委員会特別賞を受賞した西宮市・甲陽園のケーキ屋さんを訪れました。

甲陽園の駅前にあるケーキハウス・ツマガリは「良い心がチカラになって、いいお菓子が生まれます」がモットーです。デパ地下に出店し、通販も行っているの、「ツマガリのお菓子のファン」という理由で見学会に参加した人も数人いました。

見学会に先立って、創業者である津曲孝社長のお話をじっくりお聞きしました。出来立のシュークリームやクッキー、牛乳の「おやつ」に先ず引き付けられました。ツマガリは「とことん納得できる素材をつかって、本当においしいお菓子だけをつくりたい」という社長の思いから始まったお店です。

牛乳は山地酪農をおこなっている岩手県田老地区の酪農家から毎日送ってもらいます。新鮮で、コクのある牛乳です。バターや小麦粉もわかりやすい「なぜ素材にこだわるか」とそれは当たり前のことだ」と社長さん。お菓子職人の心意気を感じられました。商品に限らず、餡細工の作品展への出品、お菓子で作った姫路城（原寸の50分の1）など可能性を追求し続け、人を幸せにするお菓子づくりに取り組んできました。

それだけでなく、社長さんは、「人づくり」「地域づくり」にも長年にわたって精を出してきました。（つづく）

「日本でいちばん大切にしたい会社」見学会
ケーキハウス・ツマガリ（甲陽園）

巻ノ巻、よ

編集後記

▼「菓子袋に金貨」とは、まるで時代劇です。「原発マナー」は、原発がある限りつきまとうものなのか。

「クリーンに 人の心も

汚染する」（川柳のつもり）

▼ラグビーのルールを知っていることが、これほど役立つ日がくるとは。世界中のラグビーファンを身近に感じる日々。11月2日の決勝戦まで、目が離せません。